

ここで、もっと小さい赤ちゃんの実例を紹介します。

しばらく前の話ですが、私の子（第3子）は、産院を含め26日間、妻の実家で過ごし、生後27日目に我が家へ戻ってきました。

翌日の朝9時頃であったと思う。「何か、子供の様子がおかしい」と妻が言ってきた。

体温を測ったところ38度4分、咳は無く、喘鳴も無かったが、呼吸促拍の感があった。

薬をつくり、2歳児の動画のように少量の水で溶き、それを指先に盛り、赤ん坊の口の中、横のほうにぬりつけ、直ちに母乳を飲ませた。これを4～5回繰り返しただろうか、すると夕方5時頃に多くの粘る痰を吐いた。楽になったようだ。体温を測ると平熱になっていた。ほっとした。

妻も安心したようで、子どもの顔を見ていた。突然、「夕日が当たっているので顔が赤いのかな」と言った。

この子は生まれてからずっと顔を含め体中が黄色であった。でも、今日1日で黄色味が無くなり、健康な赤ちゃん色になった。不思議だ。生涯忘れられない一日となった。

その後、もちろんこの子も、けがをしたり、風邪をひいたり、風邪が長引き肺炎になったり、アトピーになったり、百日咳になったり、その他いろいろあったが、その都度私が漢方薬をつくり、飲ませ、治してきた。

この子が女子高へ入学した或る日のこと、学校から身上書なるものを貰って来た。親兄弟の事などを書くためのものだ。最後の欄に「かかりつけ医」というのがあり、困った。行きつけの医院が無かったからだ。

そして今、三十路余りになるも、ずーっと漢方薬を飲んでいる。もちろんその時々体調に合わせて薬を選んでだが。と、同時にその子の2人の子供も飲んでいる。先が楽しみだ。